学 位 論 文 審 査 の 要 旨

		要　　旨
学位申請者	松浦　恵美 【比較社会文化学専攻　平成22年度生】	本論文はアメリカ合衆国出身で長らく英国に居住し、晩年英国に帰化した米国人小説家ヘンリー・ジェイムズ（1846-1916）の後期から晩年の小説作品を主な対象に、19 世紀後半から 20 世紀にかけて、地政学的条件の変化にともなうグローバルな権力関係の変化を背景に、新しい状況や秩序の変化に直面する人々の個人の在り方および主体のゆらぎを描くジェイムズのテクストが、19 世紀的な道徳律とは異なる新しい倫理的姿勢を提示していることを分析・考察した英語による論文である。 第 1 回審査委員会では、ジェイムズのテクストにあらわれる今日的問題について、グローバリゼーションを念頭に近現代の思想家の理論を積極的に取り入れつつテクストの読解を行った学術レヴェルの高い論文であり、英語論文としても書式とともに丁寧な配慮がなされ、学位請求論文として審査に値するという点で意見が一致した。その上で、ジェイムズの時代を今日のグローバリゼーションと同一視はできないことをさらに明確にするため、序論でジェイムズにとってのグローバリゼーションという概念規定を詳細に説明し、それに基づいて各論を緊密に連結して論じること、さらに、小説ではなく、第一次世界大戦に際しジェイムズが国家とナショナリズム、文化と芸術についての所感を記したエッセイを対象に論じた第 6 章を、本論文の主旨に沿った形で改稿すること、その他、細かい表現や概念の確認、たとえば English と British といった微妙な概念をともなう語や表現の使用を精査する等の改稿要求と助言がなされた。 第 2 回審査委員会では、要求された改稿が適切になされたことを確認したが、第 6 章の扱いについて、ジェイムズのもつ時代的な限界について明らかにし、今日的な視点からの読解を意識・主張することで議論の整合性をもたせ、序論においてもそれを言及して、論文全体の首尾一貫性を高めるための微修正が要求された。第 3 回審査委員会はメール審議となり、改稿部分が修正され、全体のまとまりと説得力が強化され、論文としての完成度が確認された。 公開発表では上記の修正が活かされ、論文の論点・流れともに明快に説明され、また質疑応答も適切であった。最終試験では、試問に対し、適切な応答がなされ、改稿・修正が適切になされていることが確認された。 以上のことから、本審査委員会は、博士（人文科学）Ph.D in English Literature の学位にふさわしい論文であると判定し、合格とした。
論 文 題 目	Henry James on Ethical Questions within the Process of Globalization	
審 査 委 員	（主査）　教授　戸谷　陽子	
	准教授　高桑　晴子	
	准教授　中野　裕考	
	教授　松崎　毅	
	教授　清水　徹郎	
インターネット公表	○　学位論文の全文公表の可否（　可　・　否　） ○　「否」の場合の理由 ア．当該論文に立体形状による表現を含む イ．著作権や個人情報に係る制約がある ウ．出版刊行されている、もしくは予定されている エ．学術ジャーナルへ掲載されている、もしくは予定されている オ．特許の申請がある、もしくは予定されている ※　本学学位規則第２４条第４項に基づく学位論文全文のインターネット公表について	